

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 27 年 10 月 1 日 (2015.10.1)

【公表番号】特表 2014-521746 (P2014-521746A)

【公表日】平成 26 年 8 月 28 日 (2014.8.28)

【年通号数】公開・登録公報 2014-046

【出願番号】特願 2014-526094 (P2014-526094)

【国際特許分類】

A 6 1 K 6/093 (2006.01)

A 6 1 K 6/083 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 6/093

A 6 1 K 6/083

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 8 月 10 日 (2015.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基剤ペーストと触媒ペーストとを混合することにより作製される硬化性歯科用組成物であって、

前記基剤ペーストは、少なくとも 2 つの脂肪族不飽和基を有する少なくとも 1 つのオルガノポリシロキサンと、Si-H 部分を有する少なくとも 1 つの成分との組み合わせから選択される、硬化性部分 (AC) を有する成分 (1 つ又は複数) (A) を含有し、

前記触媒ペーストは、Pt 含有成分を含有する触媒 (C) を含有し、

前記硬化性組成物は、少なくとも 1 つの Si-H 基を反応性部分として有する成分 (X) を含有し、

前記基剤ペースト又は前記触媒ペーストのいずれかは、反応体 (Y) を含有し、前記反応体 (Y) は前記成分 (X) と相互作用することが可能であるが、架橋反応には関与せず、

前記反応体 (Y) は、不飽和部分を 1 つだけ有するシラン成分、アルキルビニルエーテル成分、アルキルアリルエーテル成分、及びこれらの混合物から選択され、

前記硬化性組成物は、前記基剤ペーストと前記触媒ペーストとを混合してから 20 秒後の前記組成物の温度 T₁ を、T₁ より約 6 ~ 約 20 高い温度 T₂ まで上昇させるのに十分な量のエネルギーを生成することが可能である、組成物。

【請求項 2】

F-含有成分を含み、ここで前記 F-含有化合物が次式によって特徴づけられ、

$$T_1 - X - [(O - CF_2 - CF_2)_u - (O - CF_2)_v - (O - CF(CF_3) - CF_2)_w - (O - CF_2 - CF_2 - CF_2)_x - O] - X - T_2$$

式中、 $u = 0 \sim 8$ 、 $v = 0 \sim 8$ 、 $w = 0 \sim 8$ 、 $x = 0 \sim 8$ 、 $u + v + w + x \geq 1$ であり、ここで T₁ 及び T₂ は、同じでも異なってもよく、また独立して -COOR、-CH₂OH、-CF₂OR、-CHF₂OH、-CHF₂OR、-CH₂OR、又は -F から選択され、R は直鎖状又は分岐鎖状のアルキル残基 (C₁ ~ C₉)、アリール残基 (C₁ ~ C₉)、又はアルキルアリール残基 (C₁ ~ C₉) であり、ここで X は - (CF₂)_{1 ~ 6} -、-CF(CF₃) -、及び -CHF - CF₂ - から選択される、請求項 1 に記載の

組成物。

【請求項 3】

全組成物の重量に対する重量％で、
前記成分（A）が約 20 ～ 約 60 重量％、
前記触媒（C）が約 0.00005 ～ 約 35 重量％、
前記成分（X）が約 5 ～ 約 25 重量％、
前記反応体（Y）が約 1 ～ 約 5 重量％、
前記充填剤が約 0 ～ 約 70 重量％、
前記添加剤が約 0 ～ 約 30 重量％を含有する、
請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載される基剤ペーストと触媒ペーストとを混合する工程を含む、歯科用印象材の製造方法であって、前記基剤ペーストと前記触媒ペーストとの混合物が、混合してから 20 秒後に測定した温度 T1 を有し、かつ混合後約 15 分の時間枠の範囲内で測定した温度 T2 を有し、前記 T2 が前記 T1 よりも約 6 ～ 約 20 高い、歯科用印象材の製造方法。

【請求項 5】

基剤ペースト及び触媒ペーストの形態で存在する硬化性歯科用組成物の硬化時間を短縮するための反応体（Y）の使用であって、基剤ペースト、触媒ペースト、及び反応体（Y）が請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載される通りである、使用。